

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1470700327
法人名	社会福祉法人 秀峰会
事業所名	グループホーム 磯風の謡
訪問調査日	平成19年12月4日
評価確定日	平成20年1月31日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	1470700327
法人名	社会福祉法人 秀峰会
事業所名	グループホーム 磯風の謡
所在地	235-0023 横浜市磯子区森5-5-53 (電話) 045-751-3333

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 SYビル2F		
訪問調査日	平成19年12月4日	評価確定日	平成20年1月31日

【情報提供票より】(平成19年11月26日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・ 平 12年 3月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 7 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 7.6 人	

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨造り		
	2 階建ての	階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	72,000 円	その他の経費(月額)	45,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (350,000 円)	有りの場合 償却の有無	有 /無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1100 円			

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	2 名	要介護2	1 名		
要介護3	3 名	要介護4	3 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 83.2 歳	最低 74 歳	最高 99 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団 協友会 屏風ヶ浦病院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

経営母体は名を地域に定着させている秀峰会、テーマは「天に星、地に花、人に愛」でこれに沿った確固たる理念があり、これを勿論、事務所の目立つ所に掲示するとともに、パンフレット、名刺においても記載、一貫した介護ポリシーで関係事業所全体に展開している。ロケーションは京急屏風浦駅から徒歩7~8分、小高い丘の上にある。駅から近く、ご家族が訪問しやすい地理にある。施設の1Fはデイサービス、2Fが1ユニットのグループホームとなっている。居宅・訪問介護が一緒にあったが近所に転出した。平成12年から8年弱を経過し、既に定着しており安心しておまかせ出来る安定感と地域との一体感がある。グループホームとしては1ユニットであるが、デイと併設であるため、デイ常駐の看護師、本部の管理栄養士のアドバイスが受けられる点でも安心である。居宅を含めた多機能の活用で、馴染みながら、違和感の無い入居が可能となっている。介護計画については居室担当の設定と、センター方式の一部をベースとし、課題を中心に利用者中心のプランを策定している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での指摘事項は無かったが、職員の研修について特にこの1年間取り組んだ。法人として行う研修は、ヘルパー対象の”ボディメカニクス”などにも参加させた、ホーム新入職員には先ずお客様の気持ちで、次いで入居者の気持ちで、その本人になってもらい、例えば入居者として介護を実際に受けてもらう。下の世話を受け、入浴介助してもらう。新入職員にはチューターを付け、チューターのオリエンテーションやワーカーの声かけで感じたことを実習記録として書かせ、チューターのコメントを付けて提出させている。仲間の介護者に入浴介助されるのが一番嫌との声があるが、これも利用者の思いと受け止めるよう指導している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価に対する取り組みとしては勉強会を開催し、医療の問題、介護保険の問題と併せて伝えている。評価結果については評価結果を前向きに捉え、ホームの良いところ、改善すべきところを把握し、課題を設定し、改善策を実行し、日常の活動に活かしている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>夏に磯子区の運営推進会議に関する説明会があり、現在は実施に向けて準備中であり、なんとか年度内に開催すべく各方面へ折衝中である。自治会の関係で自治会長、民生委員、老人会とのパイプはあるので正式に運営推進会議メンバーとして参加して頂けるように委嘱して行きたいと考えている。磯子区や地域包括支援センターの参加についてはどちらになるか、両方か、正式メンバーかオブザーバーかについて相談して行きたいと考えている。磯子区は全般に遅れ気味であるので3月末に向けて準備を急ぐ予定である。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>入居時、ご家族にたいしては秀峰会としての一貫した方針を示し、出来ること、出来ないことを明確にし、納得の上で入居して頂いているので問題は起きていない。交通が便利であることもあり、ご家族は比較的良く訪問してくれている。医療連携体制については現在、法人として検討中であるが、利用者のADLによっては特養の申し込みの情報提供などホーム退去後のフォローもこまめに行っている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>小学校の関係では屏風ヶ浦小学校の行事に呼ばれている。先生も交流を希望し、夏には子どもを連れてボランティアに来てくれる。森中学校ではサマーボランティアとして1週間位来てくれている。町内の方は秋の菊展覧会に出品した菊をエントランスに飾ってくれている。グループホーム連絡会の磯子・南・栄・金沢ブロックの会合が2ヶ月に1回程度あり近隣のグループホームと交流し情報を交換している。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	日常生活の中で、入居者の力を発揮できるような関わり、生活を共にするパートナーとしての関わり、生き生きと過ごせるような雰囲気作りを基本にしている。その人らしさをさらに追求し、地域資源を活用したサービス、地域に密着したサービスを展開して行く。		今後も継続して実施して行く。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々のスタッフミーティング、定例のパート会議などを理念を確認しあう場として活用している。その記録をもとに振り返りができるようにしている。		ミーティングを今後も重視し、理念の共有を図って行く。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、開所当時から地域のイベントに参加し、お誘いをいただけるようになった。		今後も継続して実施して行く。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を前向きに捉え、ホームの良いところ、改善すべきところを把握し、改善策を立てて実施し、日常の活動に活かしている。全職員が、自己評価・外部評価をより具体的に日常活動に活かせるよ徹底している。	○	全職員が、自己評価・外部評価をより具体的に日常活動に活かせるよう、さらにミーティングで徹底して行く。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	夏に磯子区の運営推進会議に関する説明会があり、現在は実施に向けて準備中であり、なんとか年度内に開催すべく各方面へ折衝中である。自治会の関係で自治会長、民生委員、老人会とのパイプはあるので正式に運営推進会議メンバーとして参加して頂けるように委嘱して行きたいと考えている。	○	年度内に開催に向けて各方面への折衝を継続する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	居宅、訪問、デイのサービスの関連もあり、磯子区や地域包括支援センターとの通常連絡はあるが、グループホーム単体としては必ずしもパイプが太いとは云えない。	○	運営推進会議等を通じてサービスの質向上のためのより密接な関わりを期待している。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的に居室担当またはホーム長から電話やお手紙にて連絡報告している。		今後も継続し、ご家族のご理解を得られるよう努めていきたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情窓口についての説明を載せ、契約時に説明している。		今後も継続して実施して行く。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職を抑える努力をしているものの、ある程度の異動は止むを得ず、人員不足もある。しかし、チームケアの徹底により利用者へのダメージを極力防ぐよう関係を作る配慮をしている。	○	今後も異動、離職を最小限に抑えるよう努力する。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内でも各種研修の機会があり、積極的参加を促している。各職員の資質向上とモチベーションを高めるためにも研修受講の機会を多く取り入れるよう努めている。		今後も継続して実施して行く。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互研修、地域の連絡会などの勉強の機会を設けている。		法人内外に拘らず、地域の同業者と相互訪問などにより交流をさらに深めていきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用決定までに本人、家族の見学の機会を設けたり、ホーム内のアクティビティに参加する機会を設けている。また家族との連絡を頻回に行い、相談に応じている。		家族の事情にもよるが、見学の機会を多く設定し、徐々に場の雰囲気に馴染めるよう配慮していきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	共に生活するパートナーとして、また人生の先輩として、一緒に過ごし、本人のお力をお借りしながら支えあう関係を築いている。その基本的な考え方をすすめる事無く、いつでも基本ケアとし振り返る機会を設けている。		今後も継続して実施して行く。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の言葉、行動から本人の希望を把握するよう努めている。日常のミーティングにおいて、複数のスタッフで検討している。各職員が、本人の希望、意向を把握し、それをまとめて全体で共有できるようパート会議の時などを利用している。		今後も継続して実施して行く。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	主に、職員が把握した本人のニーズを基に介護計画を作成している。日常的に家族から出される意向、アイデアをさらに盛り込む工夫をしている。		連絡頻度が少ない家族からもケアのあり方についての意向を汲み取るよう努めていく。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じて見直しを行っている。期間内に生じた変化についてはパート会議での議題として取り上げ、検討し実施している。		現状に即して期間内の介護計画の見直し、改訂を行っている。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況、要望を把握し、柔軟な支援に心掛けている。ホーム内外の各スペースを有効活用している。状況把握をよりこまめに行い、柔軟に迅速に対応できるように努めている。		今後も継続して実施して行く。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	すべての利用者ではないが、月に2回の訪問診療を導入している。突発的な疾病にも往診にて対応する。かかりつけ医の紹介により関係医療機関での受診も可能になっている。訪問歯科や訪問マッサージも導入している。		かかりつけ医との連携をさらに強化していきたい。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制についての説明の際、家族と重度化や終末期についての話し合いをした。ただし、未だ体制が出来ていない為、出来るだけ早い段階で医療連携体制を構築していきたい。	○	本人、家族と繰り返し話し合うよう努めたい。また、かかりつけ医との話し合いも行い、共有化したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	法人の「ケアハラスメント防止10項目」を掲げ、言葉かけや対応に活かしている。また常に振り返りが出来るよう定期的に勉強会を設けている。全職員が常に意識して対応できるよう繰り返しこのことを振り返るよう努めている。		今後も継続して実施して行く。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課は決まっておらず、その日の利用者の心身の状態、ペースに合わせて対応している。突然の外出の要望に対応したり、必要に応じて気分転換を図ったり、臨機応変に対応している。		利用者主体のケア、職員の臨機応変な対応が出来るよう今後も努めて行きたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に準備、食事、片付けを行うことは、開所当初から一貫して徹底している。一人ひとりの力を発揮できるよう努めている。		今後も継続して実施して行く。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員の都合ではなく、一人ひとりの希望に合わせて、入浴が楽しめるよう支援している。		今後も入浴の時間帯、長さ、回数など一人ひとりに合わせて支援していく。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	各自の得意分野に於いて活躍できるよう、アセスメントをもとに実施している。また本人がやる気になった時に臨機応変に対応できるよう配慮している。	○	生活の中での張り合い、喜び、達成感が得られるような支援をしていく。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日によって、衣類の買い物、喫茶、美容院、散歩に行きたいとの要望が出ることがあり、希望に沿って支援している。ご本人の要望を日常的に受けられるよう努めていく。		今後も継続して実施して行く。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ハード的に鍵をかけなくては危険な作りとなっている為、鍵をかけている。しかし、職員全員は理由なく鍵をかける、自由を奪う事の弊害を理解している。ご家族にも了解を得ている。		今後も考え方は職員同士共有して行けるよう努めて行く。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練を行っている。また、大家さんや隣家の協力を得られるよう働きかけている。	○	今後も地域に働きかけていきたい。また防災グッズも少しずつそろえて行きたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を記録に残し、傾向がわかれば対応を工夫している。一人ひとりの食べ方、好みの飲み物など、習慣を大切にしている。ご利用者によっては水分摂取量も記録している。		観察を怠らず、一人ひとりの力、習慣に応じた支援をしていく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	好みの音楽を流したり、テーブルや洗面所には季節の花を飾り、廊下には行事の写真を展示し、居心地よく過ごせるよう配慮している。音の大小に配慮したり、ゆったりと落ち着いていられる環境作りに配慮している。		利用者、家族、外部からのお客様が居心地よく過ごせる空間づくりに努めていく。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的には、今までご本人が使用されてきたなじみのものを、居室に置くようにし、ご本人が安心してすごされる居室作りに配慮している。		今後も継続していく。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かして下さい。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的に客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	グループホーム磯風の謡
所在地 (県・市町村名)	235-0023 横浜市磯子区森5-5-53
記入者名 (管理者)	池田香織
記入日	平成 19年 12月 1日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	日常生活の中で、入居者の力を発揮できるような関わり、生活を共にするパートナーとしての関わり、生き生きと過ごせるような雰囲気作りを基本にしている。		その人らしさをさらに追求し、地域資源を活用したサービスを展開したい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々のスタッフミーティング、定例のパート会議などを理念を確認しあう場として活用している。その記録をもとに振り返りができるようにしている。		ミーティングを今後も重視し、理念の共有を図りたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	入居希望の方や見学受け入れの時に法人理念をくならず説明し、理解していただけるよう取り組んでいる。	○	全てのご家族、地域の方々へのアプローチにも力を入れていきたい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	回覧板を利用して、気軽に声をかけ合うおつきあいができている。	○	ホームでのイベントにもお誘いし、良好なおつきあいに努めていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、開所当時から地域のイベントに参加し、お誘いをいただけるようになった。		継続的に続けていきたい。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)

6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	町内会の会合場所として1階デイサービスフロアを夜のみ貸し出している。	○	町内会や老人会等と今後も良く話し合える場を設け、より地域に役立っていけるよう検討していきたい。
---	--	------------------------------------	---	---

3. 理念を実践するための制度の理解と活用

7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を前向きに捉え、ホームの良いところ、改善すべきところを把握し、日常の活動に活かしている。	○	全職員が、自己評価・外部評価をより具体的に日常活動に活かせるよう、さらにミーティングで徹底していく。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は未実施。	○	なるべく早いうちに実施したい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	実施できていない。	○	運営推進会議等を通じてサービスの質向上のためのより密接な関わりをしていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	必要性を理解している。ただ研修に関しては人員不足の為中々参加できていない。	○	ニーズに応じて、スムーズに活用できるような体制を作りたい。また研修に参加できるように努めたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の徹底に努めている。	○	職員が学ぶ機会を作り、全体で意識を高め取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	---------------------------------	------	----------------------------------

4. 理念を実践するための体制

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	話し合いを充分に行い、ご理解をいただいている。		今後も同様に、理解、納得していただけるよう努めていきたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情窓口についての説明を載せ、契約時に説明している。		今後も同様に行っていく。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的に居室担当またはホーム長から電話やお手紙にて連絡報告している。		今後も継続し、ご家族のご理解を得られるよう努めていきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情窓口についての説明を載せ、契約時に説明している。		同様に行っていく。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的なスタッフミーティングの場、またはパート会議にて、職員の意見や提案を聞く機会とし、反映させている。		今後も継続させていく
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	現状、勤務時間帯の変更はしていないが、利用者や家族の状況に応じて柔軟な対応が求められることを話し合う機会がある。		新入職員採用時から理解を得られるよう話し合いを行いたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職を抑える努力をしているものの、現実には離職が多く人員不足が続いている。しかし、代わる場合の利用者へのダメージを極力防ぐよう、徐々になじみの関係を作る配慮をしている。	○	今後も離職を最小限に抑えるよう努力する。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
	○職員を育てる取り組み			

19	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内でも各種研修の機会があり、積極的参加を促している。	○	各職員の資質向上とモチベーションを高めるために、研修受講の機会を多く取り入れたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互研修、地域の連絡会などの勉強の機会を設けている。		法人内外に拘らず、地域の同業者と相互訪問などにより交流をさらに深めていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	スペースが少ないながらも、休憩コーナーの確保をしている。ミーティングでの職員同士の交流を行っている。職員により仕事に対するストレスが大きい場合もある。	○	職員個人個人と話を出来る機会をもっともうけ、より良いストレス軽減出来る環境作りに努めたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	半年に1度、各職員と管理者との面接を行い、その中で目標設定を行い、モチベーションを高く勤務できるよう努めている		今後も職員個々の状況を具体的に把握し、意欲を持って働ける環境を目指す。

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご見学を受けたり、訪問することにより、本人自ら発信する訴えに耳を傾け、受け止めるようにしている。		本人の求めていることをより多く把握できるよう、良く耳を傾けていきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用に至るまで、家族の不安は尽きない。電話、面談の機会を設け、家族の相談に応じている。		今後も、入居以前の時点から家族のための相談の機会を大切にしたい。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際、場合によっては、在宅の担当ケアマネジャーにつなげたり、他のサービスを紹介する場合もある。		「その時」のニーズを見極められるよう学び、各職員が相談援助の対応ができるようスキルアップしていきたい。

26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用決定までに本人、家族の見学の機会を設けたり、ホーム内のアクティビティに参加する機会を設けている。また家族との連絡を頻回に行い、相談に応じている。		家族の事情にもよるが、見学の機会を多く設定し、徐々に場の雰囲気に馴染めるよう配慮していきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	共に生活するパートナーとして、また人生の先輩として、一緒に過ごし、本人のお力をお借りしながら支えあう関係を築いている。	○	その基本的な考え方をわすれる事無く、いつでも基本ケアとし振り返る機械を設けていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の協力があつてのより良いケアだという事を入居前の面談の時に必ずお伝えし、入居後もホーム側から必ずご家族様に相談し物事を決めるようにしている。	○	家族への連絡、相談をこまめに行い、共に本人を支える良い関係を継続していきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居により、ご本人もご家族様も良好な関係を保たれているケースも多い。	○	家族へのケアを今後も継続していきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の面会、友人との外出を楽しみ、行きつけの美容院に通うケースもあり、。馴染みの人や場所との関係を大切にしている。		入居時より馴染みの人や場所の情報を得て、関係が継続していけるよう日常のケアに活かしていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の相性を良く見極め、相互に良い関係作りが出来るよう支援している。		今後も継続して行っていく。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用終了後も、ご家族様からの相談や情報提供に努めている。又、退居された方でも気軽に遊びに来れる関係作りをしている。		今後も継続して行っていく。

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の言葉、行動から本人の希望を把握するよう努めている。日常のミーティングにおいて、複数のスタッフで検討している。		各職員が、本人の希望、意向を把握し、それをまとめて全体で共有できるようパート会議の時などを利用し行っている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話の中で、また各利用者担当が家族から生活歴を聞き取り、情報を収集している。本人の習慣、生活環境、サービス利用の経過等は入居前に把握するよう努めている。		入居前の情報収集をより充実させたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	家族への聞き取りから、本人の過ごし方、心身状態、有する力を予め把握する。入居後一日の過ごし方が変化したり、新たに発揮する力もあるので、現状を常に見極めるよう努めている。また、入居後1ヶ月は必ず毎日アセスメントを行っており、その後のケアに努めている。		今後も継続して行っていく。

2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	主に、職員が把握した本人のニーズを基に介護計画を作成している。日常的に家族から出される意向、アイデアをさらに盛り込む工夫をしている。		連絡頻度が少ない家族からもケアのあり方についての意向を汲み取るよう努めていく。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じて見直しを行っている。期間内に生じた変化についてはパート会議での議題として取り上げ、検討し実施している。		現状に即して期間内の介護計画の見直し、改訂を行っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日記録する『ケース記録』に記入し、職員全員が情報を共有できるようにしている。また入居して1ヶ月は、別のアセスメントを取り、介護計画の見直しに役立てている。	○	今後も継続して行っていく。

3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況、要望を把握し、柔軟な支援に心掛けている。ホーム内外の各スペースを有効活用している。		状況把握をよりこまめに行い、柔軟に迅速に対応できるよう努めている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	近隣の中学校や小学校との交流が活発で、子供ボランティアとうや見学を受け入れている。また、地域のボランティアも受け入れながら、ご利用者の寄りよい暮らし作りに配慮している。	○	今後も、地域の方々とのコミュニケーションをとり、協力していけるようにしたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ニーズによって情報提供を行い、場合によってはケアマネジャーさんとの連携を行っている。	○	他事業所との関わりを増やし、より情報関係出来るよう努めたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	未だ関係作りが出来ていない。	○	今後、関係作りに努めて行きたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	すべての利用者ではないが、月に2回の訪問診療を導入している。突発的な疾病にも往診にて対応する。かかりつけ医の紹介により関係医療機関での受診も可能になっている。訪問歯科や訪問マッサージも導入している。		かかりつけ医との連携をさらに強化していきたい。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	相談できる特定の専門医はいないが、かかりつけ医、ケアマネジャーからの情報を得て、随時受診支援している。	○	認知症専門医に随時相談できる体制作りに取り組みたい。
	○看護職との協働			

45	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問診療をうけている方々に対しては、ともに来られる看護師と相談しながら健康管理を行っている。	○	すべてのご利用者が、訪問診療を受けているわけではないので、今後進めて行きたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医療相談員さんと話を出来る場をもうけ、情報交換や相談を行っている。	○	今後も継続して行っていく。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制についての説明の際、家族と重度化や終末期についての話し合いをした。ただし、未だ体制が出来ていない為、出来るだけ早い段階で医療連携体制を構築していきたい。	○	本人、家族と繰り返し話し合うよう努めたい。また、かかりつけ医との話し合いも行い、共有化したい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ご家族がかかりつけ医と相談しながら、今後の変化に対して検討準備を行っている。	○	今後も継続して行っていく。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	別の居所に移り住む際に、当ホームにて生活されていた様子をサマリーとしてまとめ、情報提供に努めている。	○	今後も継続して行っていく。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
	○プライバシーの確保の徹底			

50	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	法人の「ケアハラスメント防止10項目」を掲げ、言葉かけや対応に活かしている。また常に振り返りが出来るよう定期的に勉強会を設けている。	○	全職員が常に意識して対応できるよう繰り返しこのことを振り返るよう努めている。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の希望を表せるような雰囲気、自ら決定できる雰囲気作りに努めている。利用者一人ひとりの「わかる力に合わせた説明」について出来ていないことがある。	○	一人ひとりの力に合わせた声かけ、説明ができるよう、さらにスキルを上げていきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課は決まっておらず、その日の利用者の心身の状態、ペースに合わせて対応している。突然の外出の要望に対応したり、必要に応じて気分転換を図ったり、臨機応変に対応している。		利用者主体のケア、職員の臨機応変な対応が出来るよう今後も努めていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	入居前から利用している美容室等、継続して利用し、おしゃれを楽しんで頂けるよう工夫している。	○	継続して行っていきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に準備、食事、片付けを行うことは、開所当初から一貫して徹底している。一人ひとりの力を発揮できるよう努めている。	○	継続して行っていきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	個人の好みに合わせて、日常的に楽しめるよう準備し提供している。ただ、かかりつけ医師や家族との話し合いの中で、ご本人が望んでも提供しない方がよい場合はその限りではない。また、それに変わるものを提供できるよう工夫している。	○	継続して行っていきたい。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個人の状況把握の為、場合によっては記録をとり、無理のない声かけを心がけ、排泄支援を行っている。	○	継続して行っていきたい。
	○入浴を楽しむことができる支援			

57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員の都合ではなく、一人ひとりの希望に合わせて、入浴が楽しめるよう支援している。		今後も入浴の時間帯、長さ、回数など一人ひとりに合わせて支援していく。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個人が自由に休んだり、活動できるよう支援している。		継続して行っていきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	各自の得意分野に於いて活躍できるよう、アセスメントをもとに実施している。また本人がやる気になった時に臨機応変に対応できるよう配慮している。	○	生活の中での張り合い、喜び、達成感が得られるような支援をしていく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の状況を把握した上で、御自分のお財布を持っていたり、買い物時の支払いをしていただいたりしている。	○	継続して行っていきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日によって、衣類の買い物、喫茶、美容院、散歩に行きたいとの要望が出ることもあり、希望に沿って支援している。最近では人員不足の為に中々実施できていない時もある。	○	ご本人の要望を日常的に受けられるよう努めていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	普段中々行けないところへ、外出できるよう機会作りをしているが、現在、人員不足の為に中々実行できていない。	○	実現できるよう努めたい。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人自らが電話をかけたり、手紙のやり取りができるよう支援している。		今後も、通信の自由を支援していく。
	○家族や馴染みの人の訪問支援			

64	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、友人、隣近所だった人など、なじみの人たちが訪問する機会が多い。居室、ホールを使ってゆっくり過ごしている。		温かく出迎え、なじみの関係を続けられるよう支援している。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないということをすべての職員が正しく認識しており、身体拘束のない見守りのケアを実践している。	○	今後も身体拘束を行わずに最善の代替手段を検討していく。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ハード的に鍵をかけなくては危険な作りとなっている為、鍵をかけている。しかし、職員全員は理由なく鍵をかける、自由を奪う事の弊害を理解している。	○	今後も考え方は職員同士共有して行けるよう努めていきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	さりげなく利用者の様子を把握し、危険時にもさりげなくサポートできるよう心がけている。		常に意識し、実践できるようスキルアップに努力していく。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個人の状態を見極めながら、物品の管理支援を行っている。		今後も継続して行っていく。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	定期的な避難訓練、誤薬、転倒を防ぐための対策など、事故防止のための勉強会や研修を行っている。		一人ひとりの状態をよく見極め、事故防止の取り組みを強化したい。
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急法の研修を随時行っているが、定期的には行ってはいない。	○	今後定期的に行っていけるよう検討したい。
	○災害対策			

71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練を行っている。また、大家さんや隣家の協力を得られるよう働きかけている。		今後も地域に働きかけていきたい。また防災グッズも少しずつそろえていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	個人状況を把握した上で、ご家族にも情報提供を行いながら、リスクマネジメントを行っている。		今後も継続して行っていく。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルサインをよく観察し、気付きを連絡ノートに記載することにより、対応に結び付けている。		全職員が連絡ノート活用の徹底を継続する。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の情報は「投薬ファイル」に保管、随時閲覧できるようにしている。特に居室担当は担当ご利用者に対しては熟知しているものの、全員の薬を熟知しているとはいえない。	○	全職員の薬についての把握と理解を深め、服薬による症状の変化を観察できる視点を養っていきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘が及ぼす影響は顕著であり、職員はよく理解している。投薬だけに頼らず、適度な運動やヨーグルト、ラブレ等も利用している。		一人ひとりの便通の状況を把握し、予防と対応を継続的に行っていく。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	朝、昼、夕、口腔ケアを実施している。一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。		今後も継続していく。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を記録に残し、傾向がわかれば対応を工夫している。一人ひとりの食べ方、好みの飲み物など、習慣を大切にしている。ご利用者によっては水分摂取量も記録している。		観察を怠らず、一人ひとりの力、習慣に応じた支援をしていく。
	○感染症予防			

78	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	入居時には感染症に関する診断書を提出してもらっている。年一回インフルエンザの予防接種を実施している。ノロウイルス対策をしている。		感染症に関する勉強は継続したい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具は主に夜間に消毒を実施している。生活の場としての衛生管理に注意を払っている。食材は新鮮で安全なものを使用している。		衛生管理に今後も注意を払う。また、衛生管理講習会の内容を広め、さらなる理解に努めたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	1階がデイサービスな為、ハード的に入りやすい環境ではない。その分、来訪者には、居心地の良い環境を提供できるように配慮している。		かざられたハード面で出来る事に努めて行きたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	好みの音楽を流したり、テーブルや洗面所には季節の花を飾り、廊下には行事の写真を展示し、居心地よく過ごせるよう配慮している。音の大小に配慮したり、ゆったりと落ち着いていられる環境作りに配慮している。		利用者、家族、外部からのお客様が居心地よく過ごせる空間づくりに努めていく。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	大勢が集うリビング以外のこじんまりとしたスペース(廊下、洗面所など)にもイスを配置し、利用者が独りになれたり、利用者同士でくつろいだり、職員と利用者が一対一でゆっくり関わる際、活用している。		スペースを活用して、利用者同士で思い思いに過ごせる雰囲気大切にしている。
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的には、今までご本人が使用されてきたなじみのものを、居室に置くようにし、ご本人が安心してすごされる居室作りに配慮している。		今後も継続していく。
	○換気・空調の配慮			

84	<p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>換気・室温については、スタッフ間で確認しながら適宜調整をしている。</p>		<p>外気温と大きな差がないよう配慮し、こまめに行うように支援していく。</p>
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレ、浴室などは手すりを設置している。リビングや居室は家庭と同様にしている。家事などの役割活動、散歩など身体機能を活かした活動を行い、機能低下を補っている。</p>		<p>一人ひとりの身体機能の合わせた環境整備を検討していきたい。</p>
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>『わかる事』『出きる事』を普段の生活の中で見極め、出来る限り混乱や自身喪失されないように、さりげないサポートに心がけている。</p>		<p>継続して行っていく。</p>
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>建物の周りには、椅子やテーブルが置いてあり、気軽に外気浴を楽しんでいる。ベランダは狭いが、いつでも出入りが出来るよう鍵をしめておらず、花の水遣りや、洗濯干しなどが気軽に出来るようにしている。</p>		<p>継続して行っていく。</p>

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
		○	②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	—	①大いに増えている
		—	②少しずつ増えている
		—	③あまり増えていない
		—	④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・ご利用者がその人らしく、生活できるようにさりげないサポートを職員は心がけています。
- ・、日常的な買い物や喫茶、祭事や外出、またはボランティアの受け入れ等、地域との関わりを大切にし、活動の幅を広く持てる努力をしています。
- ・デイサービスと併設しており、希望に応じて活動や交流の幅を広げる機会があります。
- ・安心して医療を受けていただけるよう、医療連携を進めています。
- ・愛犬カモメが、ご利用者や職員の心のよりどころとなり、活動の機会作りにもなっています。